

昆明湖の西側の

絶壁の上その昔

清の時代の石窟や

石の彫刻見事ときいて

まず見参とハリキッた

生憎空は雨模様

テクテク歩いて一キロ余

三百三十三の石段を

見上げてまいったへたばった

よせばよいのに虚勢をはって

雨は降る／＼足は棒

ズブねれ姿で逆戻り

それもい、じゃないか思ひ出話

グルット廻って広州へ

戻る飛行機ベタ遅れ

いつ着くのやらたつのやら

発着時刻も大陸なみか

マン／＼デーもい、所

待ちくたびれてよくきけば

今日の運行中止の放送

又もや昆明引返す

国立公園大観楼

博物館でのんびりと

時間つぶしてやつとこさ

元のホテルで夜をあかす

昆明、広州飛行機で

広州よりは船の中
約三時間の小休止

やつと着いたぞ香港へ

こ、迄くればヤレ／＼だ

ご存知世界の自由都市

旅の疲れもケロリと忘れ

特別料理のご馳走に

腹はできたしほろよい気分

何を買おうか探そうか

先ずは海上で百万ドルの

夜景眺めてうっとり

万華の輝き満喫す

六十二階の屋上で

回転式の喫茶室

ビール片手に眺める味と

光りにみちた香港の

街の姿が相和して

天国にゐる心地する

こ、は下町泥棒市

肉焼く匂いたゞよう中を

客よぶ声のかしましき

夜店にむらがる人混みに

押されながらも手にとる時計

オメガ、ダンヒル、カルチャーや

セイコーもある高級品

値切つて買うも値切られて
売るも又よしイミテーション

百万ドルの表の顔と

うき世の裏をこ、にみて

もの、哀れが身にしみる

何はともあれ香港の

一夜あくれば疲れもいえて

ロビーの片隅いづくすれば

胸こもごもに思うこと

都市はもとより中国の

山間僻地に至る迄

通る日本語日本円

さすが祖国の底力

シミ／＼と知る有難さ

案内されて午前中

専門店や免税店

ブランド品やイミテーション

買ひも買つたり土産品

両手にか、えやつこらさ

軽いカバンが重くなり

重い財布が軽くなる

それも又よし膝栗毛

それでは皆さん

ハオ／＼ダーシヤ

おわび

◆全国大会の写真のお名前
で二名判りません。

お許し下さい。

◆故金子武蔵氏の葬儀に関

して、他に多数の弔辞を

頂戴しましたが、紙面の

都合により割愛させてい

ただきました。

おしらせ

太陽鉦工のビル移転に伴

い昭和六十三年九月三日よ

り辰巳会本部も左記に移り

ます。

神戸市中央区海岸通四番地

新明海ビル六階

電話（〇七八）

三三一—三二八一

辰巳会より

会務報告

昭和六十三年一月二十三日(土)

於 東明閣

幹事 小倉 五郎

皆さん今日はノ遅蒔乍ら明けま
してお目出とう御座居ます。この
間うちは小春日和を想わす様な陽
気でありました処、今日は又格別
の冷込のところよくいらつして下
さいました。主催者側と致しまし
て厚く御礼申し上げます。

本来なれば松の内にこの新春の
例会を持ちたいのでありますが、
何分にも十五日迄はお互いに公私
とも何かと会合に追われ、どうし
ても二十日頃になるのであります
が、事情万端御諒承の程お願い申
し上げます。

尚本日御出席頂きました方はお
手許の出席表にあります様に三十
八名であります。そこで一寸過去
十ヶ年間の新年例会の出席者数を

調べて見ました処五十七年が七十
二名、そして五十七年の八十七名
が最高で、爾後七十一名、六十三
名、五十八名、五十一名そして昨
年は五十五名と漸減、下降線を
辿っている訳でありまして、いか
にも現在の会員の平均年齢が八
六・四七歳と云う事もあり、本会
としては或る意味ではやむを得な
い仕儀とは存じますが、どうか御
健康である限り「我未だ健在な
り」と自己主張を兼ね各例会には
是非／＼御出席頂きます様呉々も
御願ひ申し上げます次第であります。
次に昨年十一月三日の佳節に、
叙勲の御沙汰のありました方々を
御報告申し上げます。

勲二等旭日重光章 乙竹 慶三氏

元帝人会長

勲三等旭日中綬章 小南 眩氏

元神戸製鋼所副社長

藍綬褒章 岡本佐四郎氏

帝人社長

以上三名の方であります。誠に
おめでたく心から御祝辞を申し上
げる次第であります。

続いて今年米寿に当たられる
方々を御報告申し上げます。

あちらに掲示してあります通り

西宮市 突永 清人氏
神戸市 楠山 栄吉氏
神奈川県 柘山 寿郎氏
大阪市 松田 大介氏

の四名の方々であります。御長命
誠にお目出とう御座居ます。それ
でこの方々には本会より銀杯を贈
呈申し上げる事になっていきますの
で夫々の御誕生日迄に到達する様
既に手配完了致しておりますので
左様御諒承頂きたいと存じます。
それでは後程今日御出席頂いてお
ります楠山さんに、御感想なり又
は長寿の秘訣などお話頂けますな
れば、大変結構な事と存じます。

次に「たつみ」誌四十八号は先
程受付で夫々御受納頂いた事と存
じますが御感想如何で御座居ま
しょうか。処で最近御投稿が段々
と細つて参りましたのでどうか辰
時代の想出、経験等、当時の御感
想或いは近頃の世相等、テーマは
何なりと御自由に御選び頂いて
続々と御投稿頂きます様お願い致

します。

次に本年度の全国大会でありま
すが、現在の処全く白紙でありま
すが時期は五月中旬、場所は従来
会場設営の関係もあり、又出席者
の大会前後の時間御利用等勘案の
上、殆んど京都を中心に京阪神間
に設営して参つたのでありますが、
今年には東京支部からも多数御参加
頂きたく存じますので、中間の名
古屋地区で開催したいと考えてお
ります。就而名古屋の竹下、岡本
両幹事には一肌も二肌も脱いで頂
かねばならぬと存じますが、今日
こ、に御出席の竹下さん、どうか
よろしく御願ひ致します。

それでは最後に昨年十月十三日
の秋季バス旅行、赤穂城他観光以
後に御連絡のありました物故され
た方々を御報告申し上げます。

物故者 六三年一月二三日現在

六二年十月十三日

秋季バス旅行以後

六二・一・十三

埼玉県 菊地輝男 三 上海支店

六二・一・十四

東京都 青木正倫 三

六二・二一・二四

鎌倉市 佐野茂幸 六

大日本塩業(株)

六二・二二・三三

池田市 後藤雄太郎 七

帝国麦酒(株)

六二・二二・三一

東京都 金子武蔵 八

金子直吉翁二男

以上五名の方々であります。

それではこの方々の御冥福を心から祈念して御一緒に黙禱を捧げたいと存じます。

黙禱 始め 終り

有り難う御座居ました。

これにて会務報告を終らせて頂きます。御静聴有り難う御座居ました。

第二十九回全国大会

会務報告

昭和六十三年五月十二日(木)

於 西浦温泉 東海園

皆さん今日は、遠方の処よくいらして下さいました。道中さぞお疲れだった事と存じますが、一風呂温泉に入られて多少はお寛ろぎ頂けたのではないかと拝察致します。

処で本年の大会は初めに御案内申し上げました様に、今回は中部支部と合同で企画致しました。その関係で、竹下支部長及び岡本幹事には当初より一方ならぬ御世話になりましたので、この点皆さんに御報告申し上げます。

竹下さん、岡本さん本当に色々御配慮有り難う御座居ました。皆さんに代り厚く御礼申し上げます。

さて今回は特別に御報告申し上げる様な事柄は何も持ち合わせておりませんし、まして御馳走を前にしての長談議もどうかと思われ

ますのですが、秋の旅行について一寸触れてみたいと思います。

ソレほんの思いつき程度の私案であります。瀬戸大橋周遊であります。今一寸頭の隅で考えていますのは、博覧会は八月末で終りであります。鷺羽山より瀬戸内の絶景を俯瞰の上大橋を渡り、然るべき処で海の幸を満喫し、後、四国又は岡山の博覧会を訪ねると云う構想なのであります。私も現在まで三、四のグループからお誘いを受けたのでありますが未だ全ての設備に何かと不備な点があるので、橋はマア百年は保つと云う事です。ソウ慌て、行く事もなからうと何れも辞退申し上げましたが、この連休中の話によりますと明石を朝八時に出発して、帰って来たのは翌朝の二時だったと云う様な話もありますので、それ迄に充分調査、研究の上快適なプランが立案出来れば御知らせ申し上げたいと考えています。その節には今日御出席の方は是非全員御参加頂きたいと存じます。それでは去る一月二十三日、東

明闇に於きまして行われました新年の例会以後に連絡のありました物故者を御報告申し上げます。

物故者

六三年一月二三日

於 東明閣新年例会以後

五八・二二・二四

横浜市 山下慶一 八

名古屋支店

六二・六・三

東京都 渡辺五三九 六

鳥羽造船所

六二・二二・二八

熊本市 坂本財地 七 浪華倉庫

六二・五・二十

伊勢市 杉山平好 八

鳥羽電機製作所

六二・二二・二十

東京都 海金源次 七 桜麦酒(株)

六三・一・一五

神戸市 木戸孝 七

神戸製鋼所

六三・二・二一

東京都 石谷金治郎 七

本店

六三・二・二十

加古川市 田中真一 九

本店経理部

六三・三・一

清水市 萩原朋正 七

豊年製油(株)

六三・三・六

松江市 杉村繁吉 七

六三・三・一四

川崎市 山岡義美 七 桜麦酒(株)

六三・三・二六

赤穂市 松岡文子 九

本店タイピスト

六三・四・十

神戸市 葉崎 実 七

台北支店帝国麦酒(株)

六三・四・一三

宇治市 神居安喜子 七

本店庶務課

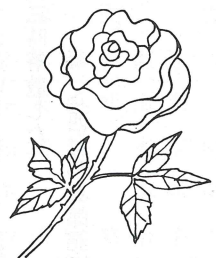
六三・四・一七

神戸市 渡辺清市郎 七 帝人(株)

以上十五名の方々であります。その他、昨年の四月十四日の全国大会以後の物故者十七名の方を含め計三十二名の方々に先立ち、一昨々日の九日祥竜寺に於きまし

第二十九回展己会全国大会名簿		昭和六十三年五月十一、十三日		於 西浦温泉東海園	
(北海道)		(東部)		(西部)	
加地 彦太郎	建部 清也	松村 勲	高畑 幸代	高畑 千代	曾根 好雄
(東京)	青柳 節子	西川 明子	竹崎 浅吉	藤田 健作	松原 和雄
安東 浄	岡本 志良	(中部)	五十嵐 集	森 好子	安並 正道
植田 三男	竹下 富士松	(本部)	小倉 五郎	吉田 宜藏	金田 裕夫
小川 謙	岡田 利雄	奥田 芳男	桂山 栄吉	南 義夫	以上五十二名
田代 義雄	北野 浅美	楠山 栄吉	源島 ふさ	小村 良弼	鈴木 治雄
田代 満寿子	末次 英一	立花 実	田中 辰巳	田中 辰巳	

〈あとがき〉
 今回は皆様方の御協力により沢山の投稿を頂き編集者として、大変有難く厚く御礼申し上げます。
 脱落のないよう掲載したつもりですが、万が一のときは悪しからず御寛容下さい。
 今後共どしどし投稿下さるよう御願ひ申し上げます。
 (南前 義夫)



東京支部新年例会

昭和六十三年新年例会を一月二十六日正午より築地スエヒロで開催した。

参加者三十名、鈴木治雄会長は大阪で社用のため欠席された。又加地彦太郎さんが、今回も函館からわざわざ上京出席して下さい、盛会裏に終えることが出来たことを幹事一同喜んでおります。

まず開会前に別室で記念撮影、十二時二十分、安東幹事の司会で会が始まる。

つづいて昨年度物故者十一名の氏名と享年が報告され全員で黙禱を捧げた。

植田支部長の開会の挨拶の後、有賀美智子さんのご鄭重なる挨拶の後、有賀さんのご発声により乾盃した。

有賀さんは長年公正取引委員会の委員をなさり、



昭和63年度辰巳会新年会 1月26日 於築地スエヒロ
荒木 益子 国広 西村 立花 加地 大久保 植田 徳末 小川 田辺夫人 西川夫人 田代夫人
中島 田代 安東 建部 近藤 移川 加藤 徳末 小川 田辺夫人 西川夫人 田代夫人
鈴木一誠 加藤 近藤 移川 加藤 徳末 小川 田辺夫人 西川夫人 田代夫人

昭和六十年秋の叙勲で勲二等瑞宝章を受章された方である。

つづいて宴会に入り、ビールを飲み食事をとりながら歓談がしばらくつづく。食事も大体一段落したところで、本日「中国見物」と題してお話を紹介する。

徳末さんは、昨年秋に中国を旅行されました。

大屋普三さんの後をうけて、昭和五十五年から六十年まで社長、会長を勤められ現在相談役をなさっております。

昭和五十五年藍綬褒章、六十年勲二等瑞宝章をうけられました。徳末さんは「ニューヨーク時代西村さんが部長で私が課長であった。そんな先輩後輩の関係でお断りしにくいので」と前置きしながらお話し下さった。

社会主義のソ聯と、社会主義と資本主義が併存する中国人民の生活ぶりなどを比較しながら、表面的の話でなく中国の実体をよく掴まれたお話であった。

中国の水や電気の乏しい日常生活、少年は大学に憧れるが入学試験は、日本の東大入学より遙かに難しいこと。住宅が不足しているので、若い人が結婚するのが大変であること。労働者の収入の状況、中国の物価事情、食生活の様子、最後は萬元戸の話で締めくくられたが、皆さん大変興味深く聞き、勉強になったと思う。

お話は約三十分に亘り、安東幹事から謝辞を申し述べ、ついで日

東京支部春季例会

四月二十一日春の旅を催したが、外房州の安房小湊へ観光バスで行った。

都内の桜は満開も過ぎ八重桜が咲き出したが、バスから眺める山の谷間の桜が、山桜であろうか、美しく咲いていた。

九時十分全員集合の上丸ビル前を出発、一路小湊へと向う。

首都高速から東京湾岸道路へ出たが、途中何処かで事故があり渋滞がしばらく続く。この調子では十二時着の予定が大分遅れるのではないかと心配したが、事故の現場を通り過ぎてからや、順調に走り出した。

浜野インターで小用のため十五分休憩の後二九七号線に入る。

こ、からは田畑の中、山の谷合いを通る一本道で幸い前に車も少なく、運転手も遅れを取戻そうと快適に飛ばす。

養老川を越し、大多喜町の曲りくねった路を下り、大多喜城を遙か右に見て勝浦方面へひた走る。



特別天然記念物鰻の浦乗船記念 昭和六十三年四月二十一日

勝浦の手前を右に曲り海岸線を走れば目ざす小湊の観光街である。

予定よりや、遅れて十二時三十分三水ホテル着。おかみさん以下従業員が玄關に迎え我が一行を歓迎してくれた。宴会場には既にお膳も配置され主の来るのを待っている。

十二時三十分安東幹事の司会の辞で会は始まり、植田支部長の挨拶、次いで大久保さんの発声で乾盃した。おかみさんが辰巳会に因

商岩井、帝人、豊年製油からご芳志を頂戴した旨の報告があった。最後に芦原幹事が閉会の挨拶に立ち、来年の正月又皆さんがお元気でこ、でお待ちしましょうと結んで午後二時解散した。

(西村鉄次郎記)

辰巳会東京支部新年例会

昭和六十三年一月二十六日 順不同

荒木 徳雄	荒木 正徳	有賀 美智子	移川 中	植田 三治	上野 金	請川 治	小川 謙	大久保 謙	加地 彦太郎	加藤 彦太郎	国本 五郎	坂本 寿	嶋内 桃枝	菅沼 甲子郎	鈴木 一誠	田代 義雄
田代 よし子	建部 清也	徳末 知夫	西村 鉄次郎	西村 正己	近藤 鳩三	小川 謙	小川 謙	立花 寿郎	田辺 満寿子	田辺 満寿子	益子 洋一郎	森 駿一郎	西川 明子	芦原 有一	安東 英吉	以上三十三名

く。車中皆お疲れのせいかもしれない。道中順調で六時十分出発地丸ビルの前に到着、その前に芦原幹事の挨拶があり皆さんお土産を手にと、薄暗くなつた中を帰路についた。(O)

話はつきないが後のスケジュールもあるので食事が一段落したところで、妙の浦を見学に出掛ける。予て話に聞いていたのは舟べりに鯛が跳ね上るといったことだったが、水温のせいなのか、見学した時間のせいか、水中に数匹鯛の姿が見えるだけであった。

また誕生寺は日蓮聖人の生誕を記念して建治三年(一二七七年)弟子の日上人と日保上人が建立したもので、現在の本堂は天保三年(一八三二年)に起工され再建されたものである。現在大改装中で来年工事完了後盛大な祭がとり行われるという。格式ある壮大な寺院である。

辰巳会東京支部春季例会

昭和六十三年四月二十一日 順不同

荒木 徳雄	荒木 正徳	有賀 美智子	移川 中	植田 三治	上野 金	請川 治	小川 謙	大久保 謙	加地 彦太郎	加藤 彦太郎	国本 五郎	坂本 寿	嶋内 桃枝	菅沼 甲子郎	鈴木 一誠	田代 義雄
田代 よし子	建部 清也	徳末 知夫	西村 鉄次郎	西村 正己	近藤 鳩三	小川 謙	小川 謙	立花 寿郎	田辺 満寿子	田辺 満寿子	益子 洋一郎	森 駿一郎	西川 明子	芦原 有一	安東 英吉	以上二十八名